

組織を核とした地域農業経営の推進

～次世代へバトンをつないでステップアップ～

活動対象：名寄市風連豊里線路西地域8戸

水稲では、施肥改善や復元田技術の必要性が理解され、地域へ定着した。品種別移植時期の適正化は、もち米生産組合を通じ、活動対象以外へ波及しつつある。

転作作物では、連作回避のため、秋まき小麦大豆間作栽培の導入および作付実績を基にした具体的な作付提案を行った。その結果、大豆3年以上連作畑は20%以下となり、転作作物の収量は平均14%上昇した。

経営管理能力の向上では習熟度に応じた研修が行われ、個々の経営に対する理解度が向上した。

5カ年の活動中に3戸で経営移譲されるなど、着実に次世代へバトンが繋がっている。

1 課題の背景

対象地域の概要（令和2年実績）	
経営者の平均年齢	53歳
1戸平均労働力	2.8人
後継者率	25%（経営移譲で2名が経営主）
作物別の平均作付面積	水稲：15.2ha
	大豆：6.5ha
	春まき小麦：3.4ha
	秋まき小麦：0.8ha

- ・対象地域は作業受託組織があり、共同作業により高い営農技術水準を維持し、名寄市における農業経営のモデル的存在である。
- ・水稲では経営規模拡大に伴い、施肥の見直しや省力化、低コスト化の検討されている。
- ・転作作物では、収量・品質を維持するには連作障害対策や輪作体系の確立が急務となっている。
- ・若手経営者や後継者が多く、経営管理能力向上が求められている。

2 活動の経過

水稲の収量・品質の安定生産

① 土壌診断に基づく施肥でコストを低減



② 輪作を見据えた復元田栽培技術の改善




その他の活動

- ・規模拡大に向けた疎植栽培の検討
- ・品種別移植時期の適正化でスムーズな生産

転作作物における輪作体系の改善

③ 秋まき小麦大豆間作栽培導入に向けた実証



H28	H29	H30
大豆	大豆	秋小麦
大豆	大豆	秋小麦
大豆	人参	大豆
スイートコーン	大豆	大豆
大豆	春小麦	水稲
水稲	水稲	水稲
大豆	秋小麦	スイートコーン
大豆	秋小麦	秋小麦

④ 作付実績を整理色分けして見える化

⑤ 具体的な作付を提案



その他の活動

- ・連作、小麦2作後水田転換畑を調査、連作の影響を整理

経営管理能力の向上

⑥ 農業技術の基礎講座 経営分析演習



⑦ 営農Naviで課題整理（経営者）



⑧ 習熟度別研修 複式簿記で基礎固め（後継者）



経営者

理解度にギャップ!

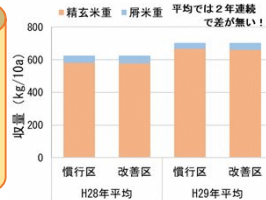
後継者

3 活動の成果

水稲の基本的な技術の見直しが進む！

減肥しても収量確保が実証され、コスト低減を目指し、施肥改善が実施！

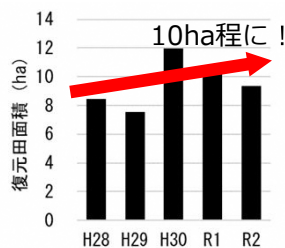
減肥しても遜色ない収量1450円/10a程のコスト低減につながり、全戸で施肥改善が実施された！



復元田技術が見直し！

栽培面積も増加傾向！

初期茎数確保の重要性が理解され、栽培体系の改善につながった。輪作体系の1つとして栽培面積も10ha程に！



基本的な技術が改善！
輪作体系の改善にも効果！

習熟度に応じた研修で経営管理能力がUP！

農業技術の基礎講座 若手経営者
簡易経営分析・生産コスト分析 後継者6名が出席

経営者 (2名)

経営が理解できた！
改善点を把握したい！

営農Naviで課題を整理！



儲かっていると思っていた作物がそれほどだった…。肥料費が多かったので施肥を見直したい！

後継者 (2名+経営者1名)

難しい…
基礎から勉強したい！

複式簿記で基礎から理解！



取引を1つ1つ記録したことで、我が家の経営の全体像がしっかり把握できた！

経営者は積極的な経営改善に、後継者は将来に向けたステップアップにつながった！

輪作体系の改善で転作作物の収量は増加！

秋まき小麦大豆間作栽培が地域に定着！

生育量が確保できれば、慣行栽培より多収が狙える！



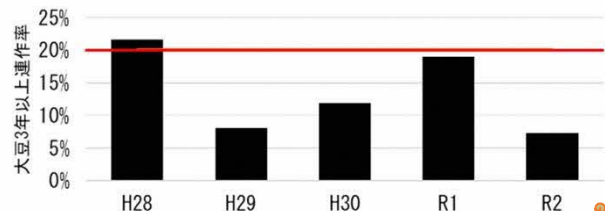
見える化した作付実績と具体的な提案で輪作意識向上！

ほ場番号	H28 作物名	H29 作物名	H30 作物名	提案内容	R1(結果) 作物名	R2(結果) 作物名
3	大豆	春小麦	大豆	大豆間作栽培で大豆の連作回避	大豆間作秋小麦	秋小麦

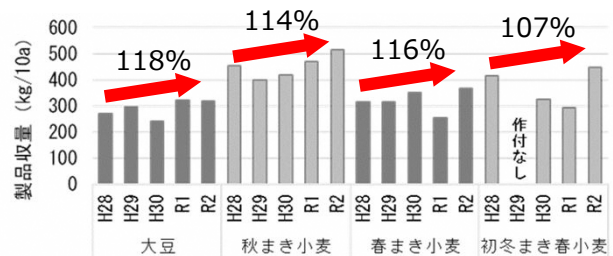


見える化した作付実績で輪作ができていないほ場が改めて分かった！連作になっているほ場は大豆をやめて秋まき小麦大豆間作栽培にしよう！

大豆3年連作ほ場は大幅に減少！



収量はH28年比で平均14%UP！



課題に応じた取組で所得UP！

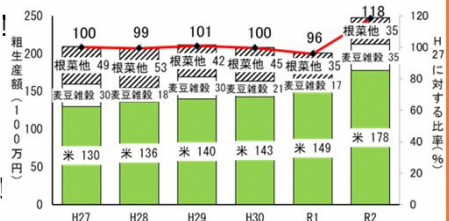
・基礎技術の励行、復元田栽培技術の向上で水稲の粗生産額はH27年比**138%**にUP！

・輪作体系の改善で、畑作物の粗生産額はH27年比**117%**にUP！

・農業所得額はH27年比

124%

と大幅な増収！



4 今後の課題

- ・水稲では品種別移植時期の適正化について、もち米組合組織としての普及活動で対応する。
- ・経営管理能力の向上については、5カ年で経営移譲も進んだことから個別の経営管理に対して要請対応する。